

JOFC第13回総会仙台総会幹事会議事録

2019年11月23日(土) 12:00~13:10

日立システムズホール仙台 ミーティングルーム2

長島: 皆さん、役員の方々が会場に着いたようなので始めさせていただきたいと思います。私SPC仙台フィルハーモニークラブの長島でございます。

それで今日の幹事会の進行をやることは、入院前の武藤事務局長から了解を得ておりました。それで、始めるにあたりまして、今ご承知いただきました石川県立音楽堂学友会の岸様以外はみんな顔も名前もわかっているメンバーでございますので、このまま始めさせていただければと思っております。

それで、今日の総会については、東京での幹事会でありましたように、総会らしい総会といっはなんですが、人事案件を中心にして、広く意見を聞きながら進めていくという総会の設定をさせていただいております。ですので、通常やっているワーキングとかはございませんので、ご了承いただきたいと思います。なお、当初の案内で総会を1時からとしていたのですが、郡市長の出席の時間帯の都合等もございまして、総会の開始を1時半にさせていただいております。ですので、総会の実質的な時間が、やや40分くらいしか取れないであろうと見ております。そこでの協議検討については、幹事会の中で整理した範囲の中で提案とさせていただきたいと考えております。

まずそこまでよろしいでしょうか。それで、西川幹事長も武藤事務局長も健康上の問題で来られないというようなことになりましたので、札幌くらぶから一言お願いします。

村岡: こちらの会(札幌くらぶ)の西川と武藤と両方が来れなくなりまして。すいません。

長島: それでは総会の進行については、本来ですと西川幹事長が進行し、事務局として実務的なことを武藤さんが担当していたのですが、今回の総会に関しましてはこれまで武藤さん西川さんと私が直前までやりとりしておりましたので、事務局長役といったらおかしいんですけど、議案等の提案等は私、長島の方からさせていただいて、進行はSPCの初代の会長の高橋の方が進行役ということで、あたらせていただければと考えております。よろしく申し上げます。



第13回JOFC総会仙台総会幹事会(その1)

一同: 了解

長島: ではですね、幹事会資料の資料1から5をちょっとめくっていただきながらお願いしたいんですが。実はこの11月23日と日付が入った資料はですね、西川メモという形で西川さんがお作りになって私の方に送ってきたものであります。資料1は西川さん



第13回JOFC総会仙台総会幹事会(その2)

が作成したものの。これに沿ってですね、進めて欲しいというような意向かなと思って入れさせていただきました。

議題2が役員会制の刷新案についてです。それでこれを見てですね、私の方で幹事長と事務局長の在り方については十分検討も必要だし、それを進めるためにはどうしたらいいのかということで、山響ファンクラブとともに協議をさせていただきました、資料2のようなものを提案ということで幹事会に出したいと思います。これについて西川、武藤両氏に相談したところです。そ

れでこの提案に関しては加藤さん（山響ファンクラブ）にもご了解いただいているということでございます。まずポイントだけ申しあげますが、①幹事長、事務局長についてですね、退任の意向が強い場合はそれに沿って考えていこうと。ただその後任については、幹事長ならびに事務局長の代行、二人ともそれでいいかどうかは別にして、それは幹事会の議論等をもって、会長よりご指名を頂くような形で、幹事会を経て総会に掛けて了承しようではないかと思いました。上田会長には終身ということも了解いただいておりますので、その部分で我々も協力していこうじゃないかというような精神が伝達事項にありました。

それから事務局の再生については、これは1回で決議うんぬんは難しいと思いましたので、できれば今年度末に交流会を開くとか、あるいは次の総会までの中で検討して具体化を図っていこうということで、これについては少し時間を掛けた方が良くないのかというのが私どもの考えでした。

それと、HP継承については、札幌くらぶ内で継承してほしい。あと5番目として、総会の在り方については実行委員会形式とし、開催地のファンクラブが主導する。というこの5点について提案したいなということで西川さんと武藤さんに相談したところです。その返事がですね資料3であります。それは西川さんからの返事です。ポイントはですね、ちょうど中段の3段落目の真ん中より下ですね。「今回で、元幹事長がサポートできる体制を進めたらいかが」となっています。西川さんのお考えで、それ以外については特に異論はないという風なお話を伺っております。ですので、西川さんについてはやはり幹事長代行ではなくて新しい幹事長を選んでいただいて、自分はそれの代行役をしたいというのが西川さんのご意向かなと思いました。

続いて資料4なんですが、これは名前が書いてありませんが武藤さんからの返事です。武藤さんのお話については上の1、2、3に対して答えはこうだということで、アンサーということでマークが付いております。ポイントはですね、アンサーの3段落目でしょうか、事務局長役を「全てのクラブから指名できる」というふうに、会則を改正する必要があるのではないかと。

また、最後のところで、「現在事務局長である私のもとに、事務局次長臨時を設置し、幹事会において1年間の事務引継ぎ期間を置いて、次期総会で会則改正し、幹事会で会員クラブから幹事長候補の推薦を受け、指名を受けるように進めていただきたいと思います

ている」という風なお考えを出されております。

ところがですね、入院の直前だったんですが、資料5というのを送ってこられまして、西川さんが作られた「西川メモ」としたもののところに、二番目の「幹事長の交代と事務局長の交代」というのを明文化して入れてこられました。それで会長職の取り扱いについては上田会長が終身の就任をご理解いただいているということですので、これについては私どもも何も問題ないと思っているんですが、ただ幹事長の交代については慎重な検討が必要なのではと考えます。

それと「事務局長の交替」なんですけども、「会則に記されていないが、事務局次長を置き次期事務局長として育成、事務引き継ぎを行いながら会則の改正を含めて、任期途中あるいは任期まで事務局長の職務を行いたいとの希望です」と書いてこられているんです。それで、これを受けましてですね、私やっぱりこの2のⅠとⅡについては、幹事会で一旦揉まないと、総会資料として提案するのは問題があると思ひまして、僭越ながらということで、この議案2のⅠとⅡはですね、今日お配りしている議案書がございますよね、封筒の中に入っている議案書があるんですが、その4ページをご覧ください。封筒の中に入っている。

上田：ここまでの話の中で質問というか疑問といいますか、こないだ東京で調子に乗って会長について了解したのは事実なんですけども、会長の終身というのはですね、平成天皇（上皇陛下）だって生前退位があればアンフェアになりましてね、あまり属人的にですね、あまり良い制度ではないんじゃないかなというように思うんです。ですので、事務局長、事務局を担当する所在は先ほどの武藤さんのご指摘のように会長の属するクラブが事務局長を担うというふうにありましたよね？

長島：はい。

上田：で、私が終身になると札響くらぶがずっとやらなきゃならない、続けてくということになってしまうことになります。だから私は終身というよりも、副会長にちゃんと移動するという方向をとりながら、会則変更無しにですね、会長と当該出身団体が事務局と組み合わせて一緒にやる事が良いんじゃないかと思ひます。で、皆様方、J O F Cの顔になってやらないと、という事で自治体に話をさせていただきました。案がなかなかとおりにくいというふうなお話もございます。多分これまで色んなところで、知事さんとかにお目に掛かって、主としてホールの問題だとかを話しました。そういうような意味で組長経験者が会長役として担ってるっていう、顔になってるっていう部分は、これは使い勝手が良いものであればですね、例えば名誉会長とかですね、そういうような制度を設けてですね、続ければ良いと考えます。私は決して、いい出しっぺでもありますので最後まで逃げるつもりはありませんけれども、皆さんの使い勝手の良いような名称を付けていただくことについては抵抗いたしませんので、それについて皆様にご審議いただいて、良き計らいを(笑)、できればいいなと思ひております。

長島：有り難うございます。ではちょっと、ご意向は頂いたんですが、ちょっと恐縮なんですけど、その続きをお話させて下さい。

上田：はいどうぞ。

長島：幹事長と事務局長の交代については、ここはもう空白にさせていただき、口頭で総会にあたらせてもらいたいと思います。

なお、先ほどの資料5にある内容をこの場で了承するというのであれば、この資料5をですね、差し替えをすることで準備はしております。ですので、この方向で行くのか、あるいは違う方向にするのか、違う方向になれば差し替えずに、この空白のところを今日提案するような形で処理させていただきたいという風に考えているところでございます。とりあえずここまでは先週までのといいますか、武藤さんの了解を得たところの論議でございました。これから40分程ですが、その中で議案について1つひとつご意見を頂きながら調整、やれるところまでということでしたいということにさせていただければと思います。

では最初に今、上田会長の方から終身ではなくてというようなお話があったんだけど、これについて如何でございますか。

一同：賛成です。(笑い声)

幹事A：やむを得ないです。

幹事B：残念ながら。

小野：本人が終身についてご意見を述べられましたが、当面は機能的には、やっぱり上田会長には続けていただきたいというところがありまして、なかなか代わる人が居ないんじゃないでしょうか。やっぱりJOF Cの会長としてこれからもよろしく願いたいと思いますけども、社会的な認知という面では、まだJOF Cっていう団体は確立してないと思いますので、そののところで上田会長の方をお願いしたいと思うんです。

長島：あの、実は去年役員を改選しているので、任期的には今年も含めてあと3年はあるんですね。それを考えますと、当分の間、任期中は会長を継続するという事で、改選期にまたどうするかという事でどうですか。まずいですか、会長。

上田：いやあの、任期もありますから、それはそれでいいんですけども、事務局やっぱりですね、西川さんも武藤さんも健康上の問題もあり、こういう意向をなされてるのはそれなりの理由がありましてですね。会長職と会則との関係で、改正については認めることができるようにしないといけないんじゃないかなと思いますからね。

岸（石川県立音楽堂楽友会）：あの、よろしゅうございますか、発言したいんですけど。

長島：はいどうぞ。

岸：あの私はなんにも過去の経緯も存じません。ただ上田会長さんの御名声はよく聞こえてきますので・・・

上田：いえいえ(笑)

岸：そういう過去のいきさつは私あまり考慮せずに、一般的な、私は一般的な組織運営ということの色々やって参りました。一般論としてちょっと感じたことを申し上げさせてよろしゅうございますか？

まあ、上田様には大変、創立以来のご功労者だと存じております。それはそれとして、今、長島さんの仰いましたようにですね、また会長がご提案なさいましたように、終身というのは人間、生身でございますので、その職務を遂行できない時は必ず、これは善悪でなく必ず来るわけです。そういう時に組織運営が円滑に行くことは大事なことでございますので、今、長島さんが仰ったように、今、任期はあるんだと。今任期はあるんですから。実質会長でございますから、それがよろしいのなら、その任期中はやっていただいて、次の時は会則に従って交代すれば良いんじゃないかという気がいたします。もちろん任期中に退任なさることは一向に構いませんが。という意見を申し上げさせていただきました。

それからもう一点、会長様が仰いました、会長が率いるクラブが事務局長を出さねばならないとか出す決まりになっているのも、これは運用上は大変良い仕組みでございますね、ただその会だけがズーッと責任を負うのは辛いよと仰ってそれを分離した場合に、円滑にいくのかなと。要するに会長が実力会長であればあるだけ、余計難しくなるという気がいたしますので、もし、人材が居られない状態というのは有り得ないと思うんですね、札幌さんのクラブでは。有り得んです。西川さんに御会長の依頼があってお代わりになるというのは、これ上田会長はご都合悪いんでございますか。

上田：いや、他のクラブも体制を整えばですね、担えるようにするようになった方が良いんじゃないかという、そういうことなんです。

幹事C：今、腹案があって仰ってるわけじゃ無いんですね。

上田：ではありません。

幹事D：一般的にいうと、そういう時代の流れが。

上田：どのクラブも今日、活動報告の中に困った事ということで全部高齢化が入っていますよね。どのクラブも。それから、それぞれ大変な思いをしながら頑張っているわけですが、でも然れど若手の皆さん方もね、仙フィルも勿論、元気な方おられますので、そういう方々みんな会の、J O F Cに参加できるような形が良いんじゃないかなと思うんですが。札幌くらぶだけで役員を組もうというのはどうかということです。

岸：ちょっとそこは私はよくわかりませんので、それ以上、発言は控えさせていただきます

すが、大体色々な団体でも会長、私は経済団体の代表もしておりましたが、会長の会社が事務局をやるというのはポピュラーな姿でございましてね、それに相応しい人材は必ず居る訳ですから。ただ、それが独占的な意味でそうするというのをご懸念なされるので、それは私も全く同感でございます。とりあえず上田会長の終身会長ということは、これはちょっと生物学的（笑）な疑念がちょっとあるかなと思ひましてちょっと、過去のこと知りませんで、上田会長のお気持ちを尊重してと思ひました。

上田：ありがとうございます。

佐藤（SPC）：私、JOFCをやるにあたって、あの、本当に武藤さんと西川さんがどれだけ頑張ってい らっしゃるかということが身に染みてわかったんですよね。それで私の意見を先に申しあげますと、やっぱりホームページとかもやっていただいていますし、一応「名のみ」って言葉が変ですけども、やっぱり事務局は札幌に置いていただきたいっていうのが一番の希望です。もっと西川さんと武藤さんね、お体のこともあるし楽しんで差しあげたいと思うんです。そういうことを考えますと、毎回の開催地のファンクラブで責任を受け取るということにしてはどうでしょうか。

それで西川さんと武藤さんはお名前としてその事務局長、幹事長という風には残していただき司会していただいたりとか。まあ来年山形って話は出てますけども、そこで全ての全権を引き受けて、もう武藤さん西川さんにはなるべくご迷惑をお掛けしないように、ここだけで完結するようにしてやるっていう、そういう感じで開催すれば、武藤さん西川さんをもう少しお楽にして差しあげられないかなっていうのが、私の今回一年やった率直な感想でございますので。札幌っていう所に形だけでも置いていただけないでしょうかね。で、やっぱり集約は札幌って所にさせていただきますけれども、結局一番大事なのはこの総会を持ち回りして完璧にやりましょうと。西川さん武藤さんにはあまりご迷惑を掛けないように開催していく形が、私は一番良いんじゃないかなというのが、これが私の個人の感想でございますけれども、如何でしょうかね。

長島：佐藤が申しあげた形は、東京で打ち合わせした時に加藤さんが仰ったことと非常に近いんだと思うんです。毎回総会については持ち回りの所が全部責任を持つと。それで本部の方はそれを承認してくれればという形の提案だと思うんですが。

幹事E：あの、やっぱりファンクラブの活動を見ていてですね、結局やっぱり札幌が一番充実している、でその次は仙台、あるいは山形かなというように思って、あるいはそれ以外の所は自分たちの活動だけでも精一杯というのが実際のところであるのが実情だと思うんです。そういう中では今、仙台の方に可能性を、今回ある意味ではテストケースなのかなと思いますけど、今のままでそのまま向けるという形は正直難しいかなと思います。なんでやっぱり上田さんがいったようにずっとという訳にもいきませんし、後のためにはどういう事が課題になっているかという事を今回のケースを見ながら一から話し合いながらやっていくということが良いんじゃないかとは思ひます。そういう意味では引き続きという、ま、暫くの間ということはあるんですけど、やっぱり支援していただくということが大事なんじゃないかなと思ひています。今回良いテストケースだ

と思いますんで、ということです。

あと、先ほど私、終身会長はずっとということでも申しあげましたけど、まずはあくまで任期の中で考えていきたいという、そうした中ではやっぱり西川さんと武藤さんの意向も踏まえながら次に向かって進んでいくという形が良いんじゃないかなということをおもうんですね。私はやっぱり武藤さんがしたいということであれば、それはそれで1つその意向を尊重しながら行く。でまた西川さんが交代していくというのも、少しずつチェンジしていくっていうことになってますから、それはそれで両方で意向受け止めながらやっていくというのでも、良いのではないかなと、そういう風に思ってます。で将来的には会長と、幹事長なり事務局長なりが一般のところでもできるようにしていく。それがスムーズに、どのファンクラブでもできるような形、当面おそらく仙台か山形、お願いせざるを得ないかも知れませんが、その中で少しずつ移行していくというのでも将来的に考えていきたいところです。

長島：私から。事務局長については武藤さん自体は資料5の2の最後にあるように「任期まで事務局長の職務を行いたい」とも考えているんですね。ただその前のところで「事務局次長を置いて、育成、事務引き継ぎを行いたい」と。それから後進に引き継ぎながら、自分は任期中はやっても良いよという風なご意向かと思うんです。ですので、武藤さん今後の健康のことはあるんですけども、基本的に継続で、後進を育てていただきたい。ただ私お願いしたいのは、やっぱりこれはもう札幌くらぶの中での、次の方っていうんですか、そうでないとどうしても伝わらない部分があって、武藤さんが大事にしたい部分と、あるいは拘っている部分とか、そういうのがわからないというのが正直なところなんですね。なのでこの、事務局長の交代については基本的には札幌くらぶの方で検討願えないかなあと。

村岡：上田会長の今までの功績には本当に感謝しますけれども、やっぱり札幌に事務局長も幹事長も会長もいるって事ですね、色々な所を順繰りにやっていただいて、それでそれぞれの組織の中で若手の人達が、自覚の高まった方、若手の人が育ってくれることが、私は一番良いんじゃないかなと思ってるんです。

幹事F：そうしますとね、これは武藤さんに、今日居ないからこれ以上踏み込めないんだけど、基本的に、他に移すということであれば進め方とか進行の仕方は、そのもう新しい事務局の体制なりに任せるって判断をしてもらいたいなっていうのが正直なところですね。これまではこうやってきた拘りは我々あるかも知れないけども次の世代、あるいは次の組織に移行したんだから、やり方はもうそこに任せるというような考え方を持っていたかかないとも思うんですね。

岸：そうですね。また一般論になってしまうんですが、どこかの名ばかり幹事長、名ばかり事務局長でありってというのは、名称に力があるもんです。だから今、長島さん仰いましたように主管、これ主宰と主管ってよくありますけれども、主管の団体が全責任を負うという体制を作れば、それで良くいけるんじゃないか。ま、札幌として、だから札幌としての人材がもう居らんのだというなら、それはそれで良いのではないですかね。

名ばかりというのは私は一般論としてあんまり良くないと思います。要するに二重構造になって事務が余計複雑になる。要するに「やる」主管の会長とそのクラブに任せてくださいというのが、私はごもつともな意見だと思います。それが円滑な全体が動くように思います。一般的な組織運営として、ええ。すいません、勝手な。

上田：いえいえ。

長島：どうですか、他の団体、今まで発言無い団体の方で、この件についてご意見いわれたら。

佐藤：広島佐藤です。私、1回目から出てて実は今日は時間があれば広島の方の広響フレンズ再建というものが、もう設定的には2年前から諦めてたんですが、その辺の実態がハッキリしたので皆さんにご報告しようと思っていたんですが、必要のない事なので。

一応完全に2022年までの任期までは上田会長、西川さん武藤さんに継続していただいて、その間に今後の引き継ぎとか考えておいたら良いんじゃないかと思うんですね。だから今、今日結論づけるとか何らかの方向性を決めるということはまだ必要ないんじゃないかと思うんですよ。今このJOF Cの活力は非常にうまく将来を考えてやってますから、今の状況でもう2、3年考えてね、結論なり出すことに決して問題は無いと思うんです。私のクラブは結構危ないから、私はもう引退して、新制化させようかと思ってるんです。ま、それは関係ないですけどね。そういう状況ですからそういうことを考えれば今、上田さん、西川さん武藤さんをお願いし、22年位までを次の目安に考えていったら良いんじゃないかと思います。

長島：ここまでのお話の中で、やはり将来的なものについては今の体制をです。ね他の所に移していくようなことを視野には入れるべきだと思いました。ただ、議案1の会長職の取扱については、先ほど私申しあげましたとおり当分の間、任期中については上田会長に会長職の継続をお願いしたいです。

それから2のIIの、事務局長の交代についてですが、事務局の体制につきましては、これはちょっと時間を掛けて調整をしていきたいと思います。ただ、1番の西川さんのご意向の部分です。ね、どのように取り扱うか。これはちょっと西川さんと直接会ってらっしゃる札響くらぶの方で、どのように考えられますか？ 私から見ると西川さんは次の方にとにかく代わりたいたいというのがご自身の考えのように見えるんですが。

上田：ちょっとしんどくなってきたのかな。

村岡：うん、まあそうですね。

長島：いや、それは私も十分伝わってきてですね、キチツとした形で引き継いで、安心していうお気持ちなのかなっていう風に、察するんですけどね。

上田：山響ファンクラブが事務局の一端をね、次代を担う。そしてそれを支援してまた仙

フィルの若手が育っていくと良いな、って形っていうか、加藤さんもすごい若手ですよ。

長島：あの、会長。それは幹事長としてですかね。それとも西川さんの代行としてですかね。

上田：どっちが良いのかはわかりませんが、西川さんと一年間、密に連絡を取っていただいて、全体のJ O F Cのこれからの在り方みたいなことをですね、考えてほしい。

長島：あの今、会長から具体的に加藤さんのお名前が出たんで、実は資料2の提案の②に、会長より指名を頂いて総会です承するという事としていました。決して加藤さんを引っ付けた訳でも無いんですが、山響ファンクラブも同意しての前々の提案ですので、加藤さんの方で幹事長、あるいは代行とかそういう形で今回西川さんが引き継ぐ事も、その検討に入るか。その部分でのご了解を頂けると大変助かるんですが。

加藤：3月の時も含めてずっと申しあげ続けているんですけども、やはりその、実は9月に札幌に行った時に、上田会長と西川さんと、3人でちょっとお食事をさせていただいてですね、その時に随分、西川さんから色々お話を聞いております。そういう段階で、J O F Cの運営については各会のね、持ち回りで開催しているときに、上田会長を頂にして全責任を負うような体制の実行委員会というものを作って、持ち回りで幹事長なり事務局長をね、西川さんと武藤さんができる限りのところまでやっていただいたら、その体制で、というのを私は申しあげ続けていて、随分良いところまで、話が良いところまで行ったので、このまま行くかなあという風に思ったのですが、山響ファンクラブも、もうなかなか実質的に体制が大変厳しゅうございましてですね、実質、私がしなければいけない事をどなたかがやってくださっているような状況にならざるを得ないと思いますので、私としては上田会長の気持ちを頂戴しつつ、実行委員会形式の持ち回りで、今日みたいにまた次回は山響、多分やらせていただく事になろうかと思っておりますけれども、実行委員会形式で全てのJ O F Cの事務を取り仕切ると。という風な形で回っていくしか、今までの、西川さん武藤さん、もう現れないと思っておりますでしょ？ で、イコール上田会長も現れない、という事だと思いますので、そこはそういう形にしておいた方が宜しいのではないかなと、ずっと申しあげ続けていると。という事でございます。

幹事G：私も今、加藤さんの意見に、ホントに100%賛成でございます。やっぱり形だけ、本当は西川さんと武藤さんがどんなに大変かっていうのはもう、わかっておりますので、札幌くらぶが人数が多くて、うちらみたいに衰退っていうよりは人数が多くて、大変なんでしょうし、高齢化でなかなかスタッフが集まらないっていうのは何処の会も同じでございますので、そのためにも一応みんなが西川さん武藤さんっていうか、事務局長、幹事長の方を補佐していく、みんなが支えていきましょうって、札幌の人達だけが引っ張っていただくんじゃなくてっていう風な形を取るのが今後のJ O F Cの行く方向としてね、やっぱりそこなんじゃないかなと私は思うんですけども。いかがでしょうか。

幹事H：それも逆に、「今年、回ってきたぞ」という時は、やっぱりそこだけはそれなりの覚悟が必要だという事ではないんですよ。

幹事I：その1回1回というか、約1年の間というかね。そこはやっぱり覚悟が必要になるだろうなという風に思います。

佐藤（山響ファンクラブ）：それでまあ、ここはまだ内々の話ですけども、佐藤（SPC）さんと話して、「来年山形でもちょっと苦しい時は助けてね」と。「うん、じゃ苦しい時は助けるよ」と。そういう風な関係も、結局突き付けていけると思うんですよ。だから、「うちだけではちょっと手一杯だから、ちょっと助けてー」っていった時に「いいよ。これどこまでやって手伝えばいい？」っていうような関係がどんどん出ていけば、また新しいJOF Cの形になるんじゃないでしょうかね。そういう話をね、佐藤さんともしててるんですけども。そういう風な感じで、まあまあ名ばかりがあんまり良くないっていうのも凄くわかるんですけども。ただ、事務局長、幹事長を、置かなくちゃいけない役職がある以上は誰かがならなくちゃいけないので、札幌の方からお名前だけでも出させていただいて、その方のお手伝いを頑張っ、西川さん武藤さん代わられても応援しますよっていう形にならないかなっていうのは私達の考えなんですけれども。

幹事J：やっぱりJOF Cの活動っていうのは2つあるんだと思うんですけど。1つ、今の総会についての運営のところでのお話が主のような気がするんですけど、なんでJOF C、それぞれファンクラブが集まったかという中で、やっぱり力を集めながらJOF Cとしての活動を1つ進めていく、という事があったわけですね。ですから、西川さん幹事長をやってる、例えば総則、会則を作ったりとかですね、これは総会とかそれだけでできるものではないものなんですね。例えば学会でいっても今日岸さんが主宰と主管という事をいいましたけれども、主管である総会についてそれぞれ札幌が当然自由に自分たちの活動方針に従ってやれば良いんだと思うんです。

しかし、JOF Cとして今後1つひとつがそれぞれのファンクラブがそれぞれのオーケストラの為に活動しながら、しかしこうやってみんなで集まってやるのは何のためかを、これを作り出していこうとしている。1+1が2じゃなくて5にも6にもなるようにしようとしてやってる。この2つがJOF C、幹事長であるとか、ホントはこっちの方が主要な仕事だと思うんですね。やっぱりよく考えるべき事なんだろうなという風に読んでます。

長島：ええ、時間になりましたので、まとめを敢えて無理にでもさせていただきたいのですが、まず議案1のIの「会長職の取り扱いについて」は、当分の間、会則の定めるように任期末まであと3年、上田会長に継続していただくと。あえてこの資料では終身とは付けずにする、というのが1つ。

それから「JOF C幹事長・事務局長交代の検討」につきましては、幹事長の交代というところで、交代について山響ファンクラブ加藤顧問と現幹事長西川幹事長との間で、今後とも方向性を協議するというようなことで、とりあえず来年まで詰める。

それからⅡの2の「事務局長の交代」については、事務局長、これは事務局の在り方も含みますので、これについては、継続して協議する、ということで、まず如何でございますか。宜しいですか。

一同：まず結構です。今日のあたりはそれで宜しいかと。

長島：はい。それじゃ、総会の開催について。議案3が「次年度総会開催地」になってるんですが、口頭で議案3としてですね、私どもの資料2の⑤で挙げてます⑤「総会については実行委員会形式とし、開催地のファンクラブが主導する」ということを議案として加え、議案3として提案させていただいて、仮にご承認等頂いたうえで、議案4として、「次年度開催地について」ということで山響ファンクラブで実行委員会形式をもって来年度行くと、いうことを議案の4にさせていただければと思うんですが、どうでしょう。

(若干のやり取り)

長島：じゃあ、そのような形で議案の方は提案させていただきます。それでは議案1はとりあえず今日はここまでで。議案2ですが、この報告についてですね、実はこれ私ども知らないの、札幌くらぶの代表の方からしていただければなと思うんです。

村岡：はい。札幌交響楽団の演奏会に使わせていただきましたということ、今回の感謝を、懇談会に報告したいと思います。他にも小さい市民コンサートも何回か行われていますので、そこでも色々発表させていただきます。その旨は、開いた2ページ目の下の方に記されていますので、後で確認していただければと思います。色々有り難うございました。

長島：総会の時はひとつよろしくお願いいたします。

村岡：わかりました。

長島：一応議案についてはこれで以上でございますが、今日のところはこれで進めさせていただきたいということでお願いいたします。

なお、別紙で、案として「全国交流会」という懇親会の日程を会議に入れておいたんですけども、それは、案とはなっておりますけども、これをお願いしますね、という意味ですので、乾杯の御発声を加藤さんよろしくお願いいたします。

加藤：はい。

長島：あと、上田会長も当然の（笑）あと恐縮ですけども、次年の開催地からということで山響ファンクラブさんの方から、お声掛けをお願いいたします。よろしゅうございま

すか。

一同：はい。

長島：総会には、仙台市長が来てくれることになりました。ただ、懇親会は来られない。私ですね、是非、上田会長と話をしてほしいと、1時半前になんとかここに着くようお願いしたんです。ですので、おそらく1時15分過ぎれば、この部屋にご案内できるかと思しますので、是非、会長ちょっと言葉を交わしていただければ・・・。

上田：大丈夫です。有り難うございます。

長島：ということで、ちょっと急いだ次第でございます。申し訳ないんですが。

岸：すみません、あの、議論というのは何をするのが目的かが非常に大事なことのようには私には思える。その目的があって組織がある訳で。

それで、私実はここへ来る前に、オーケストラさんの方から専務とかマネージャーとかも話をしてきました。要は、音楽人口を増やさないといけないんですよ。聴衆を増やさないと。ファンクラブ人口ってのはその都市の人口の3%くらいらしいですね。そうすると仙台は百万だから、三千人くらいですか。

(若干のやり取り)

このJ O F Cはみんな共通で何を指すのかを共有しておかないと、なんか幹事会ばかりが一所懸命になつとるけどもっていうんじゃないし、みんなが協力はしておかないと。

上田：各ファンクラブの目的とするところは、自分たちの地元のオーケストラのファンを増やすこと。活動について、どういう方法が良いのかということ、各ファンクラブがやっている事、やらなきゃならない事、問題視しているものを、集まって、良い活動をしているものを吸収し、疑問に思っている事をお尋ねして、答えられる事は答える、みんな考えていこうっていうのが、このJ O F Cの目的です。

それが1つと、対外的に、国に対して予算を増やせというような事もオーケストラではオーケストラとしてちゃんとやっていますけれども、我々も、これから私たちの文化を育てるためには、文化庁に対してね、オーケストラに対する支援をちゃんとしろ、ということをしっかりやっていく。これが1つ。

もう1つは、実績として我々が考えて良いかどうかはちょっと迷う部分もありますけれども、ホールがどんどん出来てるんです。これに対してやっぱりね、地元のファンクラブじゃない文化団体さんじゃなくて、このJ O F Cが「音楽をするためには器が必要なんだ」ということをちゃんと自治体に申し入れをしてきていることを、今回までやってきたわけなんですね。ですから、残っているのは仙台です。他のホール改修している場合じゃないですね。

長島：あの、お迎えの準備に入りますので。

(終了)

※録音状態が悪く聞き取れなかった箇所や雑談となった箇所は省略した。

文責 長島・高橋